

高齢少子化の加速は共通の悩み

浦和大学教授
沈 潔



先ほどのご発言はとても内容の濃いもので、多くの政策提案が盛り込まれていました。時間の関係で私は主に、今後三カ国が受ける高齢化社会の挑戦という共通課題の政策協力についてコメントさせていただきます。

高齢化社会の抱える課題は、加速する高齢少子化であり、特にこの「加速」ということばがキーワードとなっています。

その具体的な特徴は、第一に高齢化の速度がとても速いことです。日本が高齢化社会から高齢社会に突入するには24年間かかりました。韓国は17年、中国の場合は韓国ほどではありませんが、予測によれば27年かかるということです。

今年2月に中国全国高齢者委員会がまとめた報告書の試算によれば、2001年からの100年間に高齢者が、2020年までに毎年約596万人増加(快速高齢化段階)、2021年から2050年までに毎年620万人増加し、2050年以後2100年までには4億3000万人に達する(重度高齢化段階)という三つの段階を経て高齢化が急速に進んでいくとされています。

第二は、加速高齢化の一方で合計特殊出生率も急速に低下していることです。ピョン院長が提示された新しいデータによれば、韓国は2005年に出生率が1.08に低下したという予想外の恐ろしい数字が出ています。中国は現在大体1.7ほどで割合に安定していますが、香港では0.93となっており少子化が加速しています。

第三としては、今後30年間に日中韓を中心

とした東アジア地域は高齢者の多い地域に変貌する傾向があります。

以上のように東アジア全体で高齢少子化と労働力の熟年化が進んでおり、経済への影響が懸念され始めました。三カ国の取り組むさまざまな対応策ですが、日本はアジアで一番早く高齢少子化を体験してきた唯一の国です。その経験や教訓は中国や韓国にとってとても大事であり、これからリーダー格として日本の役割が大いに期待されるところです。

韓国でも高齢少子化が前例のない速度で進んでいます。ピョン院長のお話にありました、特に生産的な福祉の理念をはっきり提示して取り組んでいる五つの戦略は、ほかのアジアの新興工業国にとっても手本になると思います。

中国の場合は所得水準が低い段階で高速な高齢化を迎えるという特徴をもっていますが、現状は年金制度が整備されておらず、年金の加入率がまだ3割に満たないなど、さまざまな問題を抱えています。また、地域格差も大きく、発展途上国の少子高齢化という新たな高齢化問題としてクローズアップされていると思います。基本的な政策としては、在宅介護を軸にして地域・家族の社会的資源を最大限に活用する必要があります。

三カ国それぞれの実態や取り組みは異なりますが、直面している本質的な問題は同じであり、解決策はまだ見出されていないので、今後、三カ国は政策、実践レベルで協力して取り組むべきであると思います。その対象は、三カ国の共通介護システムの開発のほか、コミュニティ福祉政策の共同取り組み、福祉NPOなど民間資源の活用と相互支援もこれから協力できる領域であると思います。